

# 十年一昔 (その六)

## 栗山橋界限

へ大橋巨泉が住んでいた。この駐車場の奥には大橋という人が住んでいて写真材料等を扱っていました。二十四五年の頃ですから、もう二十年になりませんか、その頃小学校に通っている男の子がいました。それがいまテレビによく出ている大橋巨泉だということですよ。掲載の写真は拝借に土屋源吾さんのお宅を訪れた時、その奥さんからお伺いした言葉に、私はいささか驚いたものです。それは、私が役場に入ってから間もなくのこと、未だ教育委員会制度もなく、学事係という仕事を担当していた頃、大橋



という児童の住所確認調査に出向いたところ、応待に出て来られた奥さんが、いろいろ話の末、私が戦災者であることとお話すると、「いままぐなら元住んで居た土地は優先的に使用する権利が認められる筈だ、私達も近く東京へ引揚げる、貴方も早く東京へお帰りなさいよ」と真剣に奨めてくれたものでした。「あの人が巨泉のお母さんだったのか？」と暫らくは往時懐古の情を禁じ得ませんでした。土屋源吾さんのお宅は栗山橋に近く、本紙四九号のふるりの話題で御紹介申し上げた通り、橋際の船付場を中心に、

米の集散地として拓けた場所、其後鉄道の横芝駅が出来た。其後は名実共に附近の中心になっていったのです。そして土屋源吾さんのお宅の小田部屋さん、土屋直勝さんの鈴村屋さん等の老舗は、当時の菓葺屋根が瓦葺になり、紙障子が碎子戸に変わったこととありますが、場所殆んど元のままで繁昌しています。上の写真は、現在の栗山橋際で、駐車禁止の標識の傍に建っている電柱の向うの二階家が鈴村屋さんで、手前にさそばの看板が出ている二階家が小田部屋さんです。小田部屋さんの建物に接続しているブロック塀の奥が大橋巨泉が住んでいたという駐車場になっています。正面のトラックが走っているところが栗山橋で、その向側は光町です。下の写真は、大正の末期のもの、いまから五十年前位のもので、思われず、牛車の後に建っている電柱の向うの二階家は鈴村屋さんで、牛車の歩いている前の二階家は小田部屋さんです。正面の奥、上の写真でトラックの走っていた辺りには誰か女の人が歩いている。その向うの瓦葺根は、当時辺りに君臨した向後米問屋さんだったということ、よく見ると小田部屋さんの軒先には瓦斯灯の名残らしいものがあるようです。いま二枚の写真を改めて比較して見ますと、奇しくも、トラックが走る橋の上には人が歩き、ライトバンが駐まっている小田部屋さんの前の路上に

## 町税収納状況 税務課より発表される

昭和四十四年度の町税収納状況が、出納閉鎖の五月三十一日税務課より発表されました。この町税は昨年度に、町民の皆さんに納めていただいた税金です。次表に見るようどの税目を見ても高い収納率となっております。このことは、ひとえに町民の皆さんの税に対する深いご理解とご協力、そして町行政に対する信頼によるものと確信しております。

### 昭和44年度町税収納状況

単位千円

税目	区分	課税額	収納額	収納率
現年度分	固定資産税	24,750	24,650	99.60
	町民税	31,819	31,743	99.76
	軽自動車税	3,448	3,395	98.46
	たばこ消費税	15,096	15,096	100.00
	電気ガス税	10,168	10,168	100.00
	鉦産税	132	132	100.00
計		85,413	85,184	99.73
滞納繰越分計		704	315	44.74
合		86,117	85,499	99.28
国民健康保険税	現年度分	35,254	34,911	99.03
	滞納繰越分	786	386	49.11
	合	36,040	35,297	97.94

たりとも無駄に使うことは許されない」と言う覚悟をもって計画的な行政の運営を、住民サービスの目標である明るく住みよい町づくりに役立てようとしております。